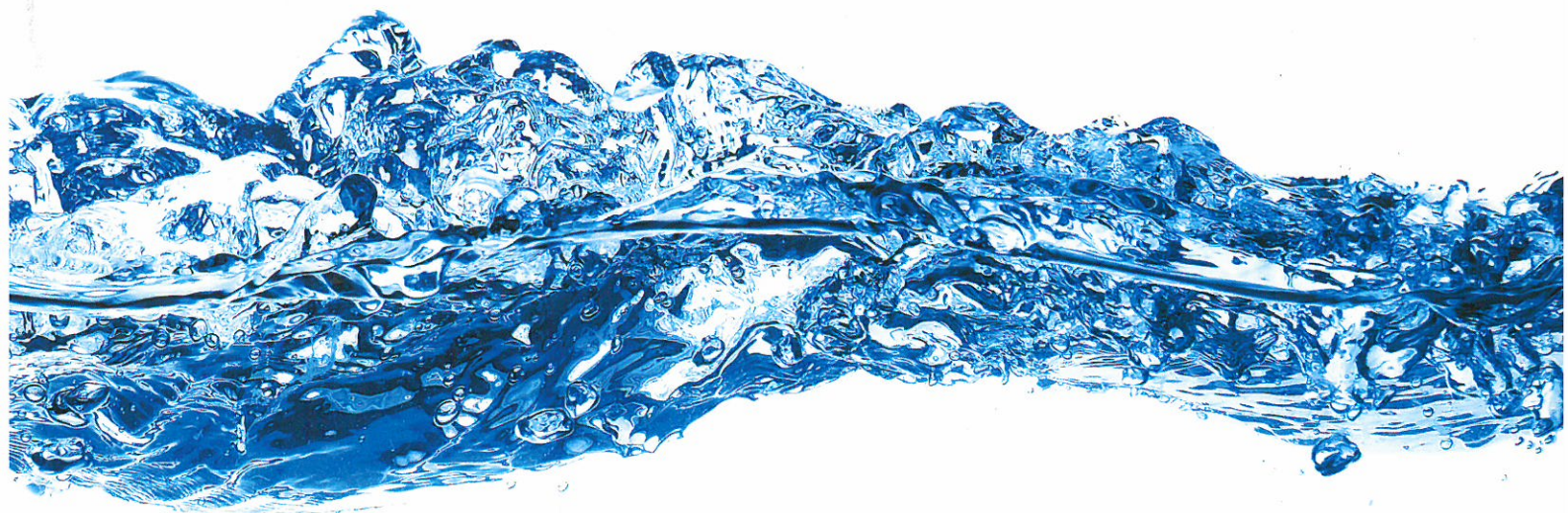


FSMA 20th ANNIVERSARY

公益社団法人 福井県下水道管路維持協会
創立20周年記念式典

日時＝平成26年9月2日 会場＝ユアーズホテルフクイ





公益社団法人 福井県下水道管路維持協会

創立20周年記念式典

日時＝平成26年9月2日 午後1:30～午後5:00

会場＝ユアーズホテルフクイ

■開会の辞

■20周年の歩み

■主催者挨拶

公益社団法人 福井県下水道管路維持協会 会長 酒井典康

■来賓祝辞

福井県知事 西川一誠 様

福井市長 東村新一 様

■記念演奏会

津軽三味線 佐藤流宗子 津軽民謡・津軽三味線

重造会 佐藤壽治

■記念講演

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会 会長 長谷川健司

■特別講演

東京大学生産技術研究所 教授 桑野玲子

■閉会の辞

創立20周年を迎えて

創立20周年を迎えるに当たり一言ご挨拶を申し上げます。

日本でもっとも早くできた近代下水道・県都福井市の合流式下水道から始まり、現在の県内管路延長は公共下水道＋農業集落排水等を含めると5,300kmに及ぶ膨大な延長の管路資産が県内に埋設されています。県民が安心して利用することができるための維持管理団体の為に当協会を創立致しました。民間団体として平成6年に設立され、事業として、下水管路の延命のための新技術の取得・専門技術者の育成・官民一体となつての維持管理の研修会・災害の支援・先進地の維持管視察研修・等を事業主体に発足したものであります。以来社団法人協会に平成11年下水道の維持管理の重要性が認められ特別業種扱いで認可されました。その後法人改革による公益性の団体として県下で最も早く、平成23年に公益社団法人の認可を頂きました。減災や県民が安全で安心した生活を守る為に当協会の存在が認知されたものと感じています。又、笹子トンネル事故のような事故がないように、老朽化対策、超寿命化対策等計画的な維持管理計画が重要で、発生主義から予防主義に移行することがクローズUPしてきており、新しい管理方式『包括的民間委託管理』に対応する資質と技術能力向上に協会員が一丸となつて研修努力を行っているところであります。管路の維持管理は、建設業にない技術資格や設備が必要であり、しかも訓練された技術者がいなければ出来ない仕事であり、災害の支援等は当協会にしか出来ないと自負しているところであります。

協会は当初11会員で出発し、現在正会員16社・賛助会員8社の24社に発展成長いたしております。技術資格におきましても全会員が下水道事業団認定管路施設技術者を保有し、清掃・調査・改築更新にいたるまでの設備も保有し、名実ともに下水道管路総合病院としての役目を果たしているものであると考えております。又、近い将来には下水道維持管理の業種認定も出来ると推察いたしております。

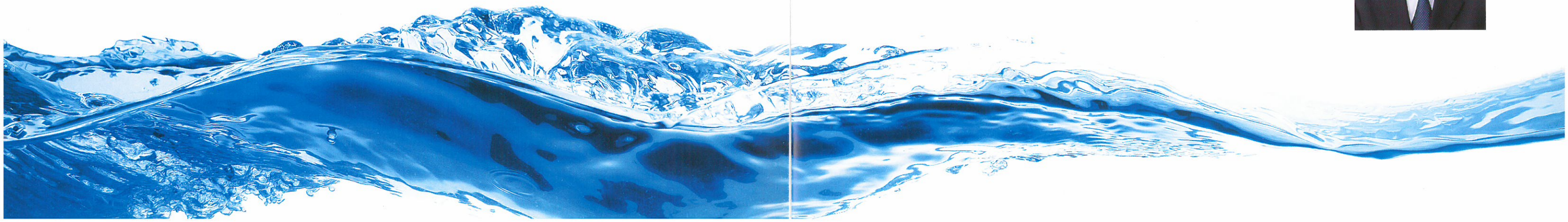
ここまでこれましたのも、下水道関係者各位や公共団体関係者・協会員のご支援ご指導のお蔭であります。改めて厚く御礼申し上げる次第であります。公益協会団体として県民の安心安全の為に、更に研鑽を積み最善の努力を行い、公益の使命を全うしてまいりたいと考えております。

関係各位のより一層のご指導、ご鞭撻をお願いし創立20周年のご挨拶とお礼とさせていただきます。

平成26年9月2日

公益社団法人 福井県下水道管路維持協会

会長 酒井典康





協会の歩み

- 平成6年5月 協会員数11社にて協会発足。
福井県土木部後援による研修会、当会の事業PRを目的に発足。
- 9月 第1回研修会開催。
全国的維持管理の現状、硫化水素対策、部分補修、スナップロックASSについて。
- 平成7年9月 第2回研修会開催。
阪神大震災と下水道施設、下水管路の調査の方法について。
- 平成8年5月 協会員数12社になる。
- 平成9年5月 協会員数14社になる。
- 平成11年9月 法人化設立総会を開催する。
定款の承認・役員の選任・事業計画・予算案の承認・事務局体制・
入会規定・年会費規定等の承認を決定する。
- 11月 社団法人福井県下水道管路維持協会設立。
- 平成12年5月 県下市町村に陳情書配布。第1号 管路ニュースの発刊。
- 平成16年8月 福井豪雨に対する地域ごとに復旧支援
- 平成21年6月 第18回維持管理研修会開催。
先進都市の維持管理の現状について
(講師:東京都下水道局施設管理部管路監理課 課長補佐 指導係長 飯島豊様)
- 平成23年4月 公益社団法人福井県下水道管路維持協会設立。

協会の概要

- 名称＝ 公益社団法人 福井県下水道管路維持協会
[略称:福井管路協(フクイカンロキョウ)]
FUKUI SEWER COLLECTION SYSTEM MAINTENANCE ASSOCIATION
[略称:FSMA]
- 所在地＝ 〒916-0005 福井県鯖江市杉本町813番地
TEL.&FAX.0778-52-2805
- ホームページアドレス＝ <http://fukui-kanrokyo.jp>
- 認可年月日＝ 平成23年3月23日(公益社団法人認可年月日)
- 認可番号＝ 福井県指令都整第135号
- 会員構成＝ 正会員16社／賛助会員8社(平成26年4月現在)
- 役員＝ 理事6名(会長1名、副会長2名)／監事2名(平成26年4月現在)

記念演奏会

記念講演

特別講演

記念演奏会

津軽三味線 佐藤流宗子

津軽民謡・津軽三味線

津軽民謡・津軽三味線 重造会(全国7支部)副会主

佐藤壽治



■奏者紹介

佐藤壽治 さとう・としはる

津軽三味線 佐藤流宗子／津軽民謡・津軽三味線 重造会(全国7支部)副会主

財団法人日本民謡協会 三味線教授

略歴

青森県黒石市生まれの福井育ち。4歳より福井に住む。津軽民謡界の重鎮、二代目今重造の嫡男。幼いころから民謡の資質をあらわし、父である二代目今重造の手塩にかけた教導もあり、唄は5歳で初舞台。三味線は10歳にして多くの先達者と舞台に居並ぶことを許され、なまの舞台で多くの先達者たちの弦にふれる。「津軽節の本流は決して飾りたてた音ではなく、心に響く音でなければ…」その為の技と心の養いが大事。それで初めて津軽節が生まれてくる。音に実があつてこそ何度でも聞きたくなる三味線となる。父・重造の教えを心に津軽を描く。

平成23年5月に『第4代津軽三味線日本一』を獲得し、更なる精進を胸に、舞台上、一門の稽古にと、一期一会の心を大切につとめている。

平成24年6月にはイタリアでも演奏活動をし、全国のみではなく海外演奏活動も視野に活動中。

賞歴

◎全国津軽三味線協議会主催 津軽三味線日本一決定戦 第5回 優勝(2011年5月)『日本一』獲得

◎全国津軽三味線コンクール大阪大会 第6回 優勝(2007年12月)

記念講演

下水道管理の将来像

- 下水道新ビジョンの描く今後の下水道
- 国の最近の管路管理に関する取組み
- 福井県下の自治体の下水道運営状況

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会 会長

長谷川健司 様



■講師紹介

長谷川健司 はせがわ・けんじ

世界的事業としての下水道および排水事業関連の技術習得のため、米国Shur-Flo社(シュー・フロー社)に勤務。1983年9月に帰国後、管清工業(株)本社をはじめ、各支店の要職を歴任。1998年8月同社代表取締役社長に就任。平成21年10月より公益社団法人日本下水道管路管理業協会会長に就任。

特別講演

都市インフラの老朽化と更生工法

都市の地中に埋設されたインフラの現状と課題を紹介するとともに、下水道管渠の老朽化に伴う道路陥没メカニズムを解説する。
さらに、老朽インフラの合理的更新・維持管理が社会的要請となっている背景の下、更生方法に関わる最近の研究経過を報告する。

東京大学生産技術研究所 教授

桑野玲子 様



■講師紹介

桑野玲子 くわの・れいこ

東京大学工学部土木工学科卒、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、英国インペリアルカレッジにてPhD取得。大成建設(株)、独立行政法人土木研究所を経て2006年より東京大学生産技術研究所。土木技術者女性の会会長。専門は土質力学、地盤機能保全工学。

主な関連論文

- ・桑野玲子(2013)、地中埋設インフラ施設の老朽化、土木施工、54巻7号、2013年7月号、pp.32-35
- ・桑野二郎、桑野玲子(2011)、土の経年変化と土構造の経年劣化、基礎工、Vol.39、No.5、2011年5月、pp.18-21
- ・Kuwano,R., Kohata,Y. and Sato,M.(2012), A Case Study of Ground Cave-in due to Large Scale Subsurface Erosion in Old Land Fill, Proc. of the 6th International Conference on Scour and Erosion, Paris, pp.56-62
- ・桑野玲子、佐藤真理、瀬良良子(2010)、地盤陥没未然防止のための地盤内空洞・ゆるみの探知に向けた基礎的検討、地盤工学ジャーナル、Vol.5、No.2、pp.219-229
- ・桑野玲子、堀井俊孝、山内康太、小橋秀俊(2011)、老朽下水管損傷部からの土砂流出に伴う地盤内空洞・ゆるみ形成過程に関する検討、地盤工学ジャーナル、Vol.5、No.2、pp.349-361